

令和7年度学校自己評価システムシート（県立皆野高等学校）

目指す学校像	校訓（誠実・勤勉・協力・奉仕）の理念の下、地域の活性化に寄与し、地域社会と産業を支える人材を育成する学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを推進し、確かな学力を育成する。 地域の人材と資源を活用し、地域と連携した特色ある学びを推進する。 思いやりの気持ちの醸成やあいさつの励行を通し、健全な心身を育成する。 生徒の特性に応じた進路指導を推進し、地域で活躍する人材を輩出する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	<p>【現状】生徒の資質・能力に寄り添った指導を行っている。加えて、体験的な学びや商品開発、資格取得の奨励等、外部との連携を進めている。</p> <p>【課題】在籍生徒が3年生のみとなり、社会で活躍できるよう卒業後を見据えた指導が必須となる。</p> <p>○基礎学力の定着を図るきめ細やかな学習指導○授業研究等校内研修の継続○検定試験挑戦の奨励と成功体験の機会の確保○地域等外部との更なる連携○ICT機器の積極的な活用</p>	基礎学力の定着と学力の向上、学びの深化を目指すことができたか。	<ol style="list-style-type: none"> 授業研究週間の設定と協議会の実施。(通年) 検定合格者数を増加させる。(通年) 生徒理解に基づいた指導を主に、各教科での総合的な評価方法を実施。(通年) アンケートを用いた授業改善。(通年) ICT活用とアクティブラーニングを用いた授業の実施。(通年) 高校通級による生徒の社会性体得。(通年) 	<ol style="list-style-type: none"> 相互に授業見学をし、協議会で意見交換ができたか。 計画的な検定試験指導により、合格に導くことができたか。 各教科で多面的・総合的に評価したか。 生徒アンケートを実施し、評価結果を分析し授業改善ができたか。 生徒が自主的に授業に取り組むことができたか。 教育支援プランに沿って計画的に指導できたか。 	<p>①年2回計4週間実施。授業改善協議会2回実施。</p> <p>②生徒に適切な指導を実施し1級等の合格者を輩出した。</p> <p>③教科内で共通認識、協議を重ねた上で評価を行った。</p> <p>④工夫を凝らした授業により、アンケート「授業内容の理解度」についてはプラス評価の回答は100%である。</p> <p>⑤アンケート「積極的に取り組んでいる」ではプラス評価の回答は90%。</p> <p>⑥生徒の特性を理解し計画的に指導を行った。</p>	A
2	<p>【現状】特色ある教育活動を実施するとともに、地域と連携し規模を維持した行事等を実施することができた。</p> <p>【課題】昨年度よりも生徒や教職員が一層減少した中で行う、統合や周年行事等の行事やイベントについて、工夫を凝らす必要がある。かつ、地域と相互協力し、外部人材の活用を取り入れ、人数が少ないからこそできる教育に挑戦する。</p> <p>○町役場、商工会等地域と情報共有を図り連携協力する。</p> <p>○異校種等と連携し、生徒の活躍の場を設ける。</p> <p>○秩父圏域4高校の行事等の継続実施。</p>	地域の人材と資源を活用した、皆野高校ならではの唯一無二の教育活動を行うことと外部に発信することができたか。	<ol style="list-style-type: none"> 開発商品の販売実習を行う。(通年) 学校運営協議会を開催し、行事(文化祭等)で協力を得る。(3回) 異校種等と交流事業を行う。地域人材の活用を促進する。(通年) 進路懇談会(6月)、在り方生き方教育の実施。(通年) 本校の取組を逐次発信(HP毎日更新。皆高CS times(学校新聞)毎月発行・地域配布。報道依頼等)。(通年) 中学生対象の進学相談会(7月)、見学会(1月)、説明会(1月)への参加。ちちぶエム出演。(通年) 交通安全運動で有料道路料金所でのお守り配布(2回)、ミニ門松制作配布等。 	<ol style="list-style-type: none"> 商品開発の販売実習等実施できたか。 学校運営協議会での意見交換・提言を活用できたか。 地域の各機関との連携を活性化することができたか。また統合にあたり同窓生と交流を深めることができたか。 地域の協力を得て実施できたか。 HP更新回数やアクセス数、新聞等へ取り上げられる回数が増加したか。 秩父定住自立圏と連携できたか。 地域行事(お守り配布等)へ参加することができたか。 	<p>①商品開発した商品の販売実習。一般向け「観光ツアープロジェクト」の計画・販売・実施。</p> <p>②年3回学校運営協議会を開催し、創立60周年記念式典・文化祭等で協力を得た。</p> <p>③異校種等と交流事業、地域人材の活用。公開講座14講座開講。</p> <p>④進路懇談会(6月)、在り方生き方教育をはじめ各イベントで交流。</p> <p>⑤HP毎日更新(連続989回)。皆高times(学校新聞)毎月発行・地域配布。報道等180回以上掲載。</p> <p>⑥中学生対象の進学相談会(7月)、説明会(2月)実施。ちちぶエム(9回)等。</p> <p>⑦交通安全運動で有料道路料金所でお守り配布(2回)、ミニ門松制作他多数取組んだ。</p>	A
3	<p>【現状】生徒が主体的に参加する学校行事や部活動、生徒会活動は行えている。一方、学校を休みがちな生徒も見受けられる。</p> <p>【課題】引続き基本的生活習慣の定着や社会性規範意識を育成、コミュニケーション能力の育成を実施する必要がある。</p> <p>○生徒の活躍の機会確保</p> <p>○挨拶励行と整容指導の継続</p> <p>○SCや巡回支援員等外部専門家を活用した相談体制の継続維持</p> <p>○外部専門家による講演会等の実施。</p>	活気ある学校行事や部活動等を実施することができたか。また、日常的に声掛けをし、きめ細やかな生徒指導を行うことができたか。	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻指導の実施(通年)。 自転車使用について指導を実施(2回)。 土砂災害訓練等総合防災訓練の実施(4回)。 SC等関係機関と教職員、保護者連携による教育相談の実施。(通年) 人権学習の実施・地区実践報告会発表。 学校生活アンケートの実施(2回) 	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻回数(延べ)が減少したか。 自転車事故を防止できたか、講習会等での指導を実施したか。 消防署員の指導のもと、火災・地震・土砂災害等の訓練において、的確に判断・行動できたか。 SC等関係機関と連携して活用状況と生徒・保護者の満足度は高まったか。 人権学習を実施・発表できたか。 結果を分析し、改善に結びつけることができたか。 	<p>①特定の生徒の遅刻・欠席はあった。</p> <p>②自転車事故発生0件。</p> <p>③年4回防災訓練を実施。煙体験等充実した内容で訓練を実施した。</p> <p>④SC(32回)やSSWを活用し、生徒・保護者と面談を実施した。</p> <p>⑤人権学習の授業及び職員研修会を行った。</p> <p>⑥「学校生活の充実」では充実しているとの回答が100%。</p>	A
4	<p>【現状】生徒一人ひとりに応じた指導により令和6年度は12月には進学・就職希望者全員進路決定をした。</p> <p>【課題】個々の能力や嗜好に合致した進路希望の実現を目指した指導が不可欠となる。</p> <p>○計画的系統的指導の継続○理解を頂いている企業との信頼関係を維持○就職支援員等を積極的に活用○「進路の手引」の見直しと有効活用の徹底。</p>	3年間を見通した系統的・組織的な進路指導により、希望進路の進路実現に繋がることができたか。	<ol style="list-style-type: none"> 「進路の手引」を活用し、計画的系統的な指導の継続実施。(通年) 各種職業検査や進路対策指導の実施。就職後の働き方指導の実施。(通年) 進路決定に向けた面接練習。(通年) 企業見学会への参加。(通年) 	<ol style="list-style-type: none"> 「手引」を適宜活用できた。 各種職業検査や進路対策指導が実施できたか。 PTAや就職支援員等と面接や指導を受けて進路が決定したか。 企業見学会へ生徒が参加し理解を深めたか。 	<p>①「手引」活用し、計画的に指導することができた。</p> <p>②ガイダンス、検査等全て予定通り実施することができた。</p> <p>③PTAや就職支援員等と面接や指導を実施し合格や内定に結びつけた。</p> <p>④企業見学会へ参加し、見聞を広めることができた。</p>	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和8年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○3年間の商業高校での学びを通して簿記や計算、記録する習慣を身につけることができ、今後に活かしていける力となっている。	○高校通級の取組などを通して、きめ細かく丁寧な指導に取り組む学校として高い評価がある。今後、皆野高校が取り組んできた多様な生徒にも対応する教育を他の学校で導入すべきだと思う。
○校内に留まらず学校外へも学習の取組として地域に出向いて様々な連携・取組をしている素晴らしい学校だと思う。観光ツアーの実践をはじめ地域の方々と触れ合う貴重な体験をさせている学校である。	○1年間かけて授業で取り組まれてきた12月実施の観光ツアー、高校生でもこんなことができるのかという皆野高校の素晴らしさを感じた。様々な取組を実践する中で、地域の人に助けてもらいアドバイスをいただきながら大きく成長した生徒の姿を見て頼もしさを感じる。
○地域での繋がりを大切に人との関わり方を勉強してきた経験は生徒自身のためになっている。中学時代は表立って行動できなかった生徒が高校では沢山のチャンスをもらい活かすことができたのではないかと。	○ファイナルイヤー、しんみりするのかと思っていたが、そんなことなく盛り上がった。1年間暇なく皆さんからの提案を実現に繋げた生徒も教員もすごい。皆野町にも皆野高校が沢山のものを残してくれた。形はもちろん気持ちや記憶、気づき、あと1か月を楽しみにしたい。
○今の中学生にも皆野高校があれば進学したいという生徒がいる。皆野高校の大切さを改めて感じている。皆野高校が11年間取り組んできた春の交通安全運動・お守り配布は皆野中学校が引き継ぐ。	○皆野高校は日々先生方が優しく暖かく迎え入れてくれる学校、毎日学校に来たくなるよう接してくれた。
○生徒会も沢山の取組を行い、スケジュール管理も身に付けてきた。今まで親に予定を管理してもらっていたが、自分でできるようになったと実感している。	○生徒の皆さんボランティアへの参加などご苦勞様でした。皆高の企画は商業高校として他高校も見習うべき内容だと思う。ぜひ皆高の取組を他の商業高校に導入できるような働きかけをお願いしたい。
○5年間委員を務め良い経験ができ皆野高校の最後に立ち会えて良かった。生徒たちも、初めて会った時より成長した姿を見せてくれている。本当に良い学校だったと感じている。	○観光ツアーが例に上がっていたが”普段ではできないこと”と一緒に取り組むことができたのが皆野高校の良さだ。これらのことを繰り返し、やっていくことが将来につながると感じている。
○生徒も先生も頑張っている。素晴らしい先生方に感謝。もっと学校行事に参加したかった。生徒も先生方も次のステージでの活躍を期待している。	